

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471500892
法人名	社会福祉法人 永楽会
事業所名	グループホームなのはな
所在地 (電話番号)	宮城県大崎市三本木蟻ヶ袋字混内山1 (電話) 0229-53-1585
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 3 月 12 日

【情報提供票より】(20年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 31 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人 非常勤 1 人 常勤換算	6.7 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83, 3 歳	最低 78 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	近江医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは古川市から南へ6kmほど南下したところにある。北に鳴瀬川、西に東北自動車道、南に4号国道が走っている。周囲は町営住宅や一般住宅に囲まれた住宅街にある大きな軒家といった趣である。合併以前の三本木町は保健福祉の先駆けとして国、県、町が一体となって取り組み、この地域一帯は福祉の中核地域として位置づけられたという。周囲の穏かな田園風景を望めばそれも頷ける。ホームの存在について、行政の担当者は「地域における福祉の社会的拠点であることを認識しており、今後とも力を入れていきたい」と将来の方向性をも含む期待を覗かせる。共に歩み、繋がりを大切にするというホームの理念どりのケアを実践していて、世代間の相互理解のもとに、明るい雰囲気の中で落ち着いた共同生活が保たれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議の設置と開催、緊急時手当てのマニュアル作成と実践研修、衛生管理のマニュアル作成と明示、注意の必要な物品の保管・管理のマニュアル作成と実施、などが改善された内容であった。他にホーム便りの発行と金銭管理のトラブル防止策としての定期的な文書報告の2点を課題として残したが、次年度に取り組み考えである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に自己評価票を配布して各自記入した。それらを総合して管理者がまとめる形で作成された。当評価を記入するにあたって現場での自分達の活動をより客観視することになったように思うとは職員の感想である。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議のメンバーは職員、入居者の家族(全家族に通知)、行政担当職員、地区長で構成されている。議題はホームの様子などについて報告がされメンバーからはそれへの感想が述べられ、その後各メンバーから意見や要望が発言されている。前回では家族から入居者が自室で変化があった場合の対応について意見が出され、ナースコールの設置が提案され検討課題となった。その結果、来年度設置の予算化が実現した。会議は2ヶ月に1回を目安にして開催される。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居に際して重要事項の説明を行ない、同時に苦情受付窓口について法人の相談室、第三者委員、行政等にあることを説明している。また、家族が来所の折には苦情、意見、不安がないか職員が会話の中から引き出すようにしている。入居者が自室で変化が生じた時の対処について家族に不安があったので、ナースコールを設置することにした。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区が主催する行事に参加している。隣接した高齢者住宅の住民と相互訪問する入居者もいる。理美容院や買い物は馴染みの店を継続利用している。ホームの南に面して公園があり、子どもとの交流で遊びに来る子もいるという。また、唄や踊り等のボランティアの訪問でリビングが賑わうこともある。散歩で挨拶を交わすことなどで顔見知りとなり、入居者がひとりで外出したときにはコンビニ、交番、タクシー会社、近隣住民などからホームへ連絡がもらえる状況になっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生活・やすらぎのある一人ひとりを大切に」「家族・共に歩みつなかりを大切に」「地域・地域の一員としての生活を大切に」は設立準備の段階で管理者はじめ職員みんなで話し合い、その思いを込めた理念である。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関と事務所に掲示されている。毎月の会議の折には個々のケアについて話し合う際に、理念を重ね合わせてミーティングを行い、全職員が共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区が主催する行事(茶会、運動会、地域自主防災訓練)に参加している。隣接した高齢者住宅の住民と相互訪問する入居者もいる。理美容院や買い物は馴染みの店を継続して利用している。日々の散歩では近隣にある公園で遊ぶ子どもや交番、コンビニ、タクシー会社、あるいは住民と顔見知りになり言葉を交わす。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員各々が評価票の記入を行ない、それを参考に管理者がまとめた。今回の取り組みで職員の感想は「客観的視点を持つことができた」「自己反省をした」などであった。前年、評価で改善したのは運営推進会議の設置と開催、緊急手当て・衛生管理・注意の必要な物品の管理などに関するマニュアル作成されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームからの報告に続いて双方向的な意見の交換がなされている。家族の出席を容易にする土曜日開催など工夫が見られる。前回の会議では、家族から不安要因として出された入居者の自室における状態変化時の対応について検討された。その結果、ナースコール(ワイヤレスチャイム)を各室に整備することとなった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	総合支所保健福祉課の担当者は、当ホームを地域社会における高齢者福祉の拠点として捉え、その重要性を認識している。地域全体がホームへの理解をなお一層深めるよう、住民に対する学習やアピール活動も今後に予定している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りがないので全体の様子を知ることができないが、入居者の状況は家族が面会に来たときに口頭で話したり、入居者に変化があったときに電話で報告している。退職や異動などで職員が替わった時には、来所した家族に新任を紹介するが前もっての報告はない。金銭出納の確認についても同様である。	○	「ホーム便り」を作成し、ホーム全体の生活の様子や職員の異動について家族に知ってもらうのが望ましい。合わせて担当職員による入居者の状況報告や金銭出納報告についても行なわれることを期待する。これらを月に一度程度家族へ送付されることで、なお一層の理解と安心と信頼関係が育まれることと思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席は全家族にを求めている。苦情受付窓口には法人の相談室や行政、第三者委員も設置しており、ポスターも掲示している。家族が来所した際には会話の中から引き出すようにしているが苦情の訴えは出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に留めている。退職の時などは代わった時点で入居者や担当家族に口頭で、または電話で紹介している。前もっての交替は知らされていない。	○	入居者にとって職員が代わることは精神的に生活全般が変わると同様の影響を及ぼすものであることを重視し、旧知の職員が媒体となって新しい職員と入居者が馴染んだ関係を持てるよう交流を重ね段階を経たうえで完全交替となるなど、入居者のダメージを軽減することに努めていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政と法人、地域の医師会の協力連携は密であり、月に1～2回は職員研修が行なわれている。「緊急時手当ての実践研修」は全職員を対象に行なわれた。資格取得については模擬試験の実践や合格祝い金の支給など積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会への参加や共生ネット(共生型グループホーム12ヵ所加入)への参加を通じて資質の向上とサービスの向上に努めている。次年度には交換研修や相互訪問を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に調査のための自宅訪問を行なっている。家族が急遽の入居を希望するため、その後入居となるのが現状だ。入居が決まってから入居までに期間がある場合は馴染みのための訪問やお茶飲みに来たり、体験宿泊などの工夫を経て本人が納得しての入居となることを視野に入れていただきたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの東側には入居者と一緒に耕作する畑がある。南瓜、カリフラワー、オクラ、じゃが芋、ピーマン、茄子などが収穫された。訪問時には白菜、大根、葱が顔を覗かせていた。入居者には耕作技術の指導もいて教わることもある。また、入居者の履歴話からは昔の生活史が分かる。雑巾縫いを一緒にしている時も支え合いを感じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりについて家族や本人から聞き取り調査をした生活歴や嗜好、希望をアセスメントシートにまとめている。また、ホームでの生活の中で分かったことなども書き加えている。職員がこのシートに書かれた情報を共有化してケアに生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や医師の意見はその都度毎に「ケース記録」に記入し、職員間で情報の共有することである。1ヶ月に一度、各入居者については3ヶ月に一度モニタリングを行なっている。モニタリングとケース記録の双方を介護計画に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化のあったとき、あるいは緊急時には相応のプランを作成している。不穏の入居者に対しては家族との連絡を密に取りながら随時見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いは家族が行うが、要望があれば職員が付き添うこともある。近所にある特別養護老人ホームや居宅介護支援との連携ができており、医療連携の指定は受けていないが看護師との連携、相談ができています。また、家族の宿泊や旅行についての柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医とするほかに2カ所のかかりつけ医がある。受診後は「連絡ノート」に医師の助言や服用する薬について記入し、家族、職員がその情報を共有する。緊急時にはかかりつけ医の指示を仰ぎ、家族とともに職員も同行して受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの研修に参加して職員の資質の向上に努めている。これまでは口頭にて重度化に伴う本人の意向や家族の希望を確認してきた。家族からは看取りの要望もある。これらを文書化する「意思確認書」を運営推進会議に提案し、検討中である。今後は訪問看護も視野に入れて考えていきたいとしているので期待したい。加えて、文書化した折には時と変化に応じて繰り返しの見直しをしていただきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴は職員と入居者が1対1で行い、同性介助の配慮もしている。言葉使いでは馴れ合いで傷つけることがないように注意して、排泄の促しにも気を使っている。入居者の情報文書は施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いつでも「本人に合わせる」ことを優先して考えている。起床、食事、入浴、就寝など強制することなく常に入居者の意志を確認しながら対応している。酒や煙草も嗜好を尊重しながら見守っている。ふと思い出したように外出する入居者には、同行して本人が納得するまで職員が付き合う。「本人の気持ちになって見守る」ことを信条としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	連携する特別養護老人ホームで作成したメニューを参考に調理している。季節や行事にあわせたメニューは入居者にとって大きな楽しみだ。各入居者の嗜好を取り入れて「今日は○○さんの好きな○○です」というように刺激することにも気を使っている。職員も一緒に食事しながら、さりげないサポートをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の意志を確認しながら誘っている。入浴したくない入居者には若干の間を置いて誘うなど工夫している。入居者の希望に合わせていつでも入浴することができる。入浴剤を使用したり職員との会話を楽しみながら入浴することができている。柚子湯などで季節を楽しむこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	この地域は花が多い所なので桜、菜の花、ひまわり、あじさい、コスモスなど季節ごとに全員でバスの遠出を楽しんでいる。法人内の他施設の行事に参加することも多い。畑作りをしたり理美容院へ行ったりすることも生活に張りを持たせている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつでも、行きたい時に入居者が希望するままに散歩や買い物に行くことができる。近くのコンビニは馴染みの店のひとつで入居者は欲しいお菓子を買に行くこともある。地域のスーパーでは、入居者が知人に会うことが多く声を掛けられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居間や厨房から玄関が見えるので訪問、外出の様子が分かりやすい。入居者が外出したときは職員が話しかけて必要なら一緒に出るなどの対応をしている。ひとり外出した時には馴染みの店や交番、タクシー会社、住民などから連絡協力をもらえる体制になっている。夜間には施錠をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行うこととしている。今年度は3月に一回を残し実施予定になっている。地区が行なう「地域自主防災訓練」にも参加した。訓練の内容については連絡訓練を含む通常訓練であった。夜勤帯は職員が1人体制であることから夜間を想定した訓練が不可欠であることを重視していただきたい。備蓄については準備中とのことである。	○	当ホームは、市の防災マニュアルに添って「見守り対象」になっている。また、夜間を想定した訓練を重ねることで現実的な課題を見つけることができ対策することも可能である。地区との具体的連携の示唆も見えてくると思われるので、次年度には夜間を想定しての訓練をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事の摂取量、排泄、入浴について記録し入居者の状態を把握することに努めている。体重は月に一度の測定で増減の具合を見て健康管理に役立てている。栄養のバランスでは管理栄養士にメニューを見てもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室の脱衣所は天窓になっており、すりガラスからは自然光が優しく注いでいる。随所にある大きなガラス窓だが場所に応じた透明度になっており光が適度に調節されている。リビングには観葉植物がさりげなく置かれ、廊下の壁には、居室の目じるしに時計やカレンダーが掛けられている。ほとんどの入居者が居室ではなくリビングに集う様子から居心地の良さがうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には冷暖房機が設置されている。寝具や家具など入居者が私物を持ち込んでおり、入居者自身が好きなように配置している。位牌、写真、椅子、戸棚など使い馴染んだものと思われる品々が並んでいる。居室の入り口が開放したままなのはホーム(職員)への信頼度を表わしている。		